

太田 君子さん

弘前市熊嶋のご自宅にて加工品作りをされている。長年の間、朝3時起床で、毎日直売所に売りに出していたが、現在では週5回ほどに。作っている加工品は、おやき、ごまおこわ、油揚げ餅、赤飯、いなり寿司、海苔巻き、など。



直売所「林檎の森」へ加工品を出荷している方はどんな人？
その人物像や加工品にまつわるエピソードを聞いてきました

「私甘いのが好きだから、なんでも甘いっきゃ」

若い頃からお料理が好きだったという君子さん。お嫁に来てからも家庭料理を学ぶため、足繫く習い事に通ったそう。

加工品作り歴はなんと15年。ごまおこわをバック詰めする手作業が早く、写真がブレる。少しストップをお願いします、と写真を撮らせてもらった。そんな加工品の中で一番人気があるのは、あんこが詰まったおやき。

「息子が『餅作って売ればいい』と言っから、作り方をいろいろ試行錯誤して作り始めたの。あなた来るって言ってたから、仕事残しておいたんだよ」と手袋を出し、おやきの個包装を手伝わせてくれた。この優しい気遣いがなんとも嬉しかった。

昔は日本舞踊『西川流』を各自

宅で教えたこともあったが、今は外に習いに行っていて、発表会にも出られている。加工品作業をしているお部屋にも、君子さんの舞踊姿のお写真が額装されており、どの姿もとても素敵だった（※中央列左の写真）。

この日、直売所に並んだ加工品を撮影しようとして売り場へ行くと、君子さんのおやきを手に取るお客様が何人かいらした。話しかけると「このお餅柔らかくて美味しいっきゃ」と教えてくれた。

長年のファンの為にも、ぜひ作り続けてほしい味だ。



指に輪ゴムを掛けるのが能率的作業のポイント

農協役員室で——ネズミ盗聴記

元農協学園長
秋田 義信



農協の役員室。今日も放送局や
油売りとオンベが来ている。

放送局「専務さん、生命共済の受
取人を、倅（せがれ）でなく、吾
（ワ）に変更できませんか。生き
ているうちに使いたいのだじゃ」
専務「そつすれば、死んだとき葬
式を粗末にされるよー」

油売り「いま、どこの墓石も立派
なものになっているな——。石屋
が喜んでゐるそつで…」

放送局「墓石の大きさが、家の格
でもないのでな——」

オンベ「総理大臣をつとめた若手
県原敬の墓が盛岡にあるが「俺
の墓石は一尺五寸べらうごめい」
とつ遺言」より、小さなものだ」
油売り「りんご協会を設立した茨
川伝次郎の墓が、黒石市の感随寺
の境内にあるが、幅五寸、高さ二
尺べらうの小さなものだ。「墓石
はいらぬ。木を一本植えてくれ」

と遺言をのこした人もあつたそつ
だが」

オンベ「人のえらさは肩書きより
も何をしたか、であるな——。そ
れから、同じ村から国会議員が二
人…上北町（現東北町）とオラ木。
上北町は森田重次郎氏と米内山義
一郎氏…」

阿呆川柳

隣のカッチャを褒めたらふくれる
オレエのカッチャ

晩酌は二合でやめると倅言つ

吾の生命共済 受取人を俺にせよ

尊農捍食

農家を

見下すべからず

農業は国の

基なり

九五老